Gen00324 今こそ、再処理・高レベル廃棄物問題を問い直す時期
#0000 dando　　8808182049

今こそ、再処理・高レベル廃棄物問題を問い直す時期

ｂｙ　大阪科学部・団藤

８月１４日の社説に「”むつ”の過ちを繰り返すな」というのがありました。そこからちょっと引用します。

> ウラン濃縮も再処理も、元はといえば軍事技術であり、商業用としては未完成である。安全性を高めながら、コストを下げていくのは、並大抵のことではない。
>
> 今後の状況に対応して、柔軟に事業計画を見直していく姿勢も大切だ。たとえば、再処理事業は、プルトニウムを利用するために行うものであり、使用済み燃料の処理のためのものではない。プルトニウム利用の本命である高速増殖炉の実用化が遠いとすれば、再処理はいったん凍結するという選択もあるのではないか。

このボードで、わたしはあまり個人的な意見を出しませんでしたが、ここでは明確にしたいと思います。再処理計画は凍結して、国民的な再検討に委ねるべきです。社説にもそこまで踏み込んでほしかった。

関西電力の２０３０年ビジョンが最近出ましたが、高速増殖炉は２０３０年時点でも実用炉として、組み込まれていません。下北に計画中の再処理工場だけで８０００億円の巨費が投じられます。さらに、第二、第三の工場が必要です。これらは基本的には消費者への負担としてはねかえります。

再処理の結果、プルトニウムは分離できて使えるようになります。しかし、非常に長寿命の高レベル廃棄物も裸になってしまいます。こちらの技術開発は率直なところ遅れています。そもそも、何万年、あるいは何十、何百万年、管理し続けるべきかーーとの合意すら出来ていません。

地層中に閉じ込める構想にも、かなり大きな欠陥があります。どんな堅固で、傷のない花崗岩盤を見付けたとしても、その中に封じ込めるには、穴を開けて入れねばなりません。穴を開ければ、栓をしなければなりません。栓

をする作業は、現在の技術でしかないでしょう。工学的常識からみて、千年、万年のオーダーでもつ栓の技術はありません。

　原子力を推進している側にも、再処理路線の旗を降ろすべきだとの認識は広がっているはずです。再処理工場が欲しいというのは業界共通の認識でしょうか。もし、使用済み燃料の中間貯蔵施設が出来るのなら、当分先でもいい、ということになるでしょう。それでもなお、再処理という人の主張は、建前論の核燃料サイクル推進か、中断すると次に立ちあげるのが難しくなるーーとの弱々しい理由になるでしょう。何年か、この業界を観察してきた、わたしの「独断的状況判断」ですが・・・。

　再処理問題を扱うべきなのは、在京のマスコミです。ところが、問題意識がそちらに向いているとは、到底思えないのが現状です。時期を失してしまう恐れが極めて大です。わたしは残念ながら、この問題に取り組むポジションにいません。

.